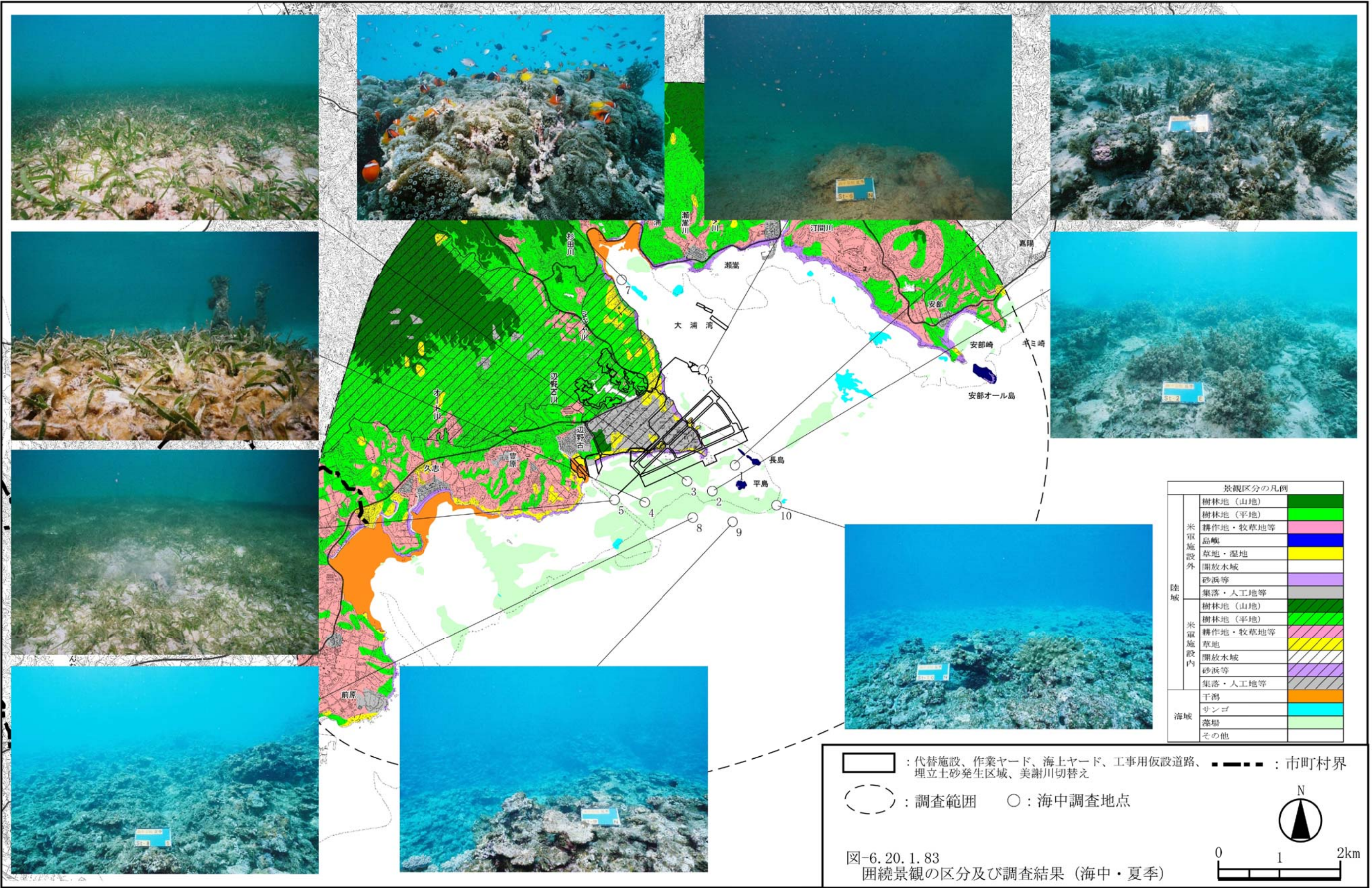


図-6. 20. 1. 82 围绕景観の区分及び調査地点 (米軍施設内)

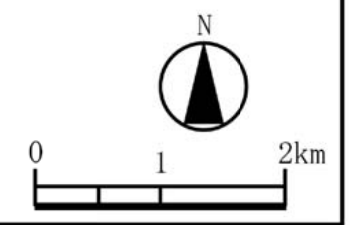




景観区分の凡例			
陸域	樹林地 (山地)	[Green]	
	樹林地 (平地)	[Light Green]	
	米電施設外	[Pink]	
	耕作地・牧草地等	[Yellow]	
	草地・湿地	[Light Blue]	
	開放水域	[White]	
	砂浜等	[Purple]	
	集落・人工地等	[Grey]	
	米電施設内	樹林地 (山地)	[Green with diagonal lines]
		樹林地 (平地)	[Light Green with diagonal lines]
耕作地・牧草地等		[Pink with diagonal lines]	
草地		[Yellow with diagonal lines]	
開放水域		[White with diagonal lines]	
海城	砂浜等	[Purple with diagonal lines]	
	集落・人工地等	[Grey with diagonal lines]	
	干潟	[Orange]	
	サンゴ	[Cyan]	
藻場	[Light Green]		
その他	[White]		

[Solid line] : 代替施設、作業ヤード、海上ヤード、工所用仮設道路、埋立土砂発生区域、美謝川切替え  
 [Dashed line] : 市町村界  
 [Dashed circle] : 調査範囲    [Circle] : 海中調査地点

図-6.20.1.83  
 围绕景観の区分及び調査結果 (海中・夏季)



d) 困繞景観の価値の把握

景観の価値については、普遍価値と固有価値について、次に示すような概念で価値を把握しました。

(ア) 普遍価値

普遍価値の認識項目としては審美性・自然性・多様性などがあげられます。調査範囲周辺の普遍価値の特性としては以下のような特徴があげられます。

- ・ 植生の特徴としては、山地から丘陵、台地部の大部分がイタジイ群落となっています。また、海岸付近にはリュウキュウマツ群落が点在しています。平野部である沖積低地や台地上には人為的影響が強く見られ、畑地、水田や市街地、造成地として利用されています。全体的に各種二次林や代償植生に覆われており、古くから人に利用されてきたことが伺われます。
- ・ これらの二次林などを利用する動物として、陸域部においてはリュウキュウイノシシ、ツミやフクロウ類、サギ類やカワセミなどの鳥類、ヘビ類等の爬虫類、カエル類等の両生類、オキナワトカゲなどの爬虫類、昆虫類、クモ類等などがあげられます。水域部においては、ミサゴ、サギ類やアジサシ類、カエル類、魚類、ヨコエビ類やカニ類などがあげられます。干潟やマングローブ林においては、サギ類などの鳥類やノコギリガザミ類等の甲殻類、ゴマフエダイ等の大型魚類、ジャノメハゼやミナミトビハゼ等の中型魚類、マングローブスズ等の昆虫類、クロベンケイガニ等の甲殻类等や、生産者としてオヒルギやメヒルギ等のヒルギ類、分解者としてコメツキガニやマドモチウミニナ、ゴカイ類等があげられます。

(イ) 固有価値

固有価値の認識項目としては固有性・歴史性・郷土性などがあげられます。調査範囲周辺の固有価値の特性としては以下のような特徴があげられます。

- ・ 当該地域の主な植生の特徴はイタジイ林を中心とした樹林地です。戦前から戦後まもなくにかけては、河川の両岸は水田として、丘陵地の谷間や斜面は階段状の耕作地として、山地樹林は薪取りや林産物採取など山仕事の間として利用されてきました。特に林産物は唯一の換金源であり、山は人々の暮らしに欠かせない産業の間でした。海岸線や集落周辺の台地にはリュウキュウマツが多く植林され、人々の遊び場や船からの目印となっていました。海域においては、リーフ内はマチやタマン漁、タコなどのほか、モズク等の海藻

類を採取する非常に豊かな漁場でしたが、生業としての関わりは少なく、農耕の合間に必要に応じて魚介類を捕る生活圏として利用されていました。



二見集落の河川沿いの水田と斜面の階段状耕作地（1950年代）



嘉陽の薪の集積場（昭和35年頃）



辺野古の海岸線のリュウキュウマツ（昭和23年頃）

資料：上左写真及び上右写真 「名護市史・別巻1 写真集名護-ひとびとの100年(平成2年・名護市)」  
下写真 「辺野古誌（平成10年・辺野古区事務所）」

- ・昭和32年にキャンプ・シュワブの基地建設工事が始まり、辺野古岳、久志岳一体の山地・丘陵地が演習場となり、60年代ごろになると演習場区域への立ち入りが制限され、更に基地を中心にした商業や雇用型へと経済が移り変わり、石油燃料が台頭し薪の需要が落ちていったことなどから、現在では山地樹林は林業としての利用はあまりなされていません。海域については、戦後は潜水漁やダイナマイト漁、追い込み漁などが行われていましたが、現在ではモズク漁などが中心となっています。

地元住民の方へのヒアリングで得られた、陸域に係る調査地点ごとの価値を表す要素については表-6. 20. 1. 59に示すとおりです。

表-6. 20. 1. 59 眺望点及び視点場ごとの価値を表す要素

No.	地 点 名	固有性	歴史性	郷土性	備考：景観区分
A-1	楚久川河口			公園	干潟
A-2	辺野古の浜		アジバカー		草地・湿地
A-3	潟原の干潟	日の出		潟原	干潟
B-1	二見区林道				樹林地（山地）
C-1	三原橋			消防署、花壇、サトウキビ畑	樹林地（平地）
C-2	瀬嵩林道				樹林地（平地）
C-3	辺野古前上原公園	東屋	マナーヌ、平和之塔	平和之塔	樹林地（平地）
D-1	安部区農地			畑、インゲン	耕作地・牧草地等
D-2	辺野古区農地			農地	耕作地・牧草地等
D-3	久志区農地	久志岳			耕作地・牧草地等
D-4	松田農村公園	公共施設	あしびなー	あしびなー、公民館、農地	耕作地・牧草地等
E-1	長島			長島、灯台	島嶼
F-1	汀間地区会館、嘉手苺橋	神アサギ、サンカジョウ、ウタキグワー、	神アサギ、サンカジョウ、ウタキグワー、	神アサギ	開放水域
F-2	大浦のマングローブ林	マングローブ	マングローブ	マングローブ	開放水域
G-1	カヌチャビーチ		防風林、河川		砂浜等
G-2	瀬嵩の浜	五若森		五若森	砂浜等
G-3	二見海岸				砂浜等
G-4	ヒーピー海岸交流広場				砂浜等
H-1	安部地区会館			公民館	集落・人工地等
H-2	三原地区会館			公民館	集落・人工地等
H-3	汀間漁港	漁港		漁港	集落・人工地等
H-4	瀬嵩区公民館		拝所、慰霊碑	公民館	集落・人工地等
H-5	大浦集落センター	拝所、ガジマル	拝所、ガジマル	ガジマル、公民館	集落・人工地等
H-6	大川集落センター	大浦川		大浦川、公民館、ゲートボール場	集落・人工地等
H-7	辺野古交流プラザ	公民館			集落・人工地等
H-8	豊原地区会館	公民館、運動場		公民館の「躍進」の碑	集落・人工地等
H-9	久志区公民館	ガジマル	ガジマル、体育館前広場	ガジマル、体育館、共同売店	集落・人工地等
g-1	米軍施設内ビーチ	米軍施設			砂浜等（米軍施設内）
h-1	辺野古崎				集落・人工地等（米軍施設内）
h-2	米軍施設内広場2	米軍施設			集落・人工地等（米軍施設内）

注) 空欄はヒアリングにおいて情報がなかった項目

また、地元住民の方へのアンケート調査で得られた景観区分ごとの価値の把握結果は図-6.20.1.84及び図-6.20.1.85に示すとおりです。

アンケートは、景観区分の現況写真を見ていただき、写真から受ける印象について5段階評価をするSD法で行いました。価値の評価に係る形容詞と数値割り当ては表-6.20.1.60に示すとおりです。

普遍価値・固有価値ともに、樹林地（山地）や島嶼、開放水域などが高くなる傾向がみられました。

表-6.20.1.60 価値の評価に係る形容詞と数値割り当て

調査項目	普遍価値			固有価値		
	審美性（総合指標）	多様性	自然性	固有性	歴史性	郷土性
景観の印象	美しい	複雑な	自然な	めずらしい	歴史を感じる	地域イメージに合っている
非常に	1	1	1	1	1	1
やや	2	2	2	2	2	2
どちらでもない	3	3	3	3	3	3
やや	4	4	4	4	4	4
非常に	5	5	5	5	5	5
景観の印象	美しくない	単調な	人工的な	ありふれた	歴史を感じない	地域イメージに合っていない

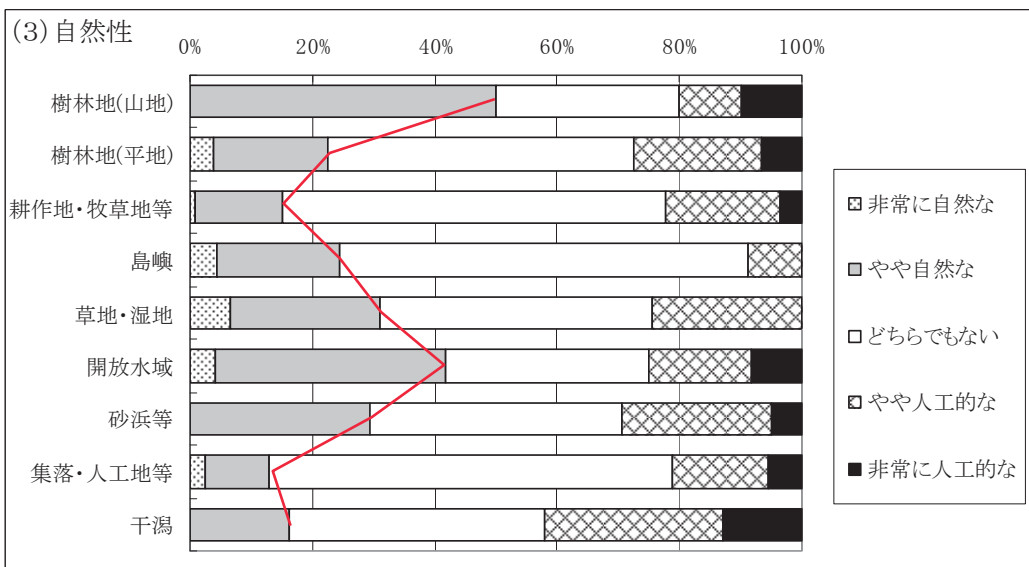
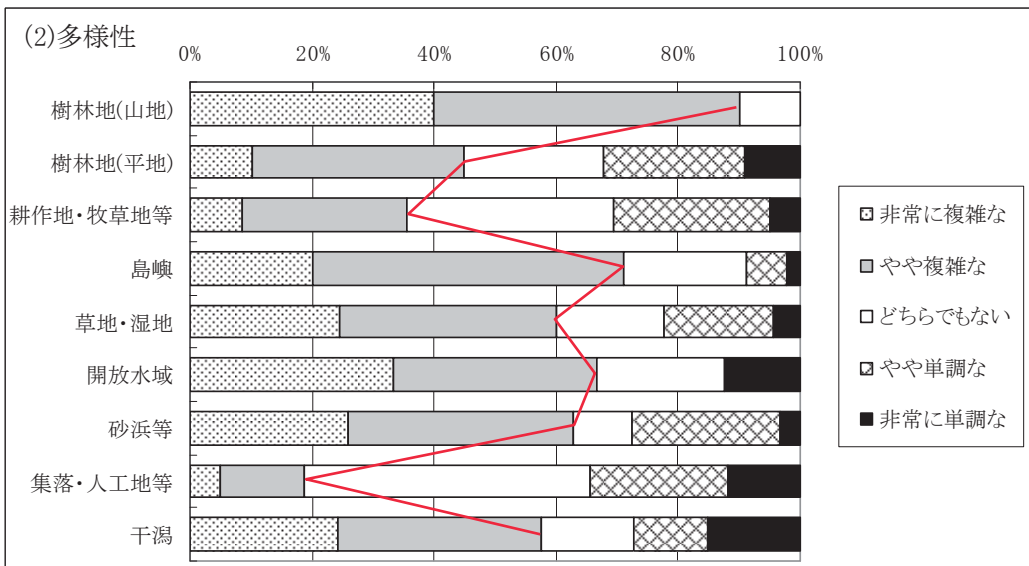
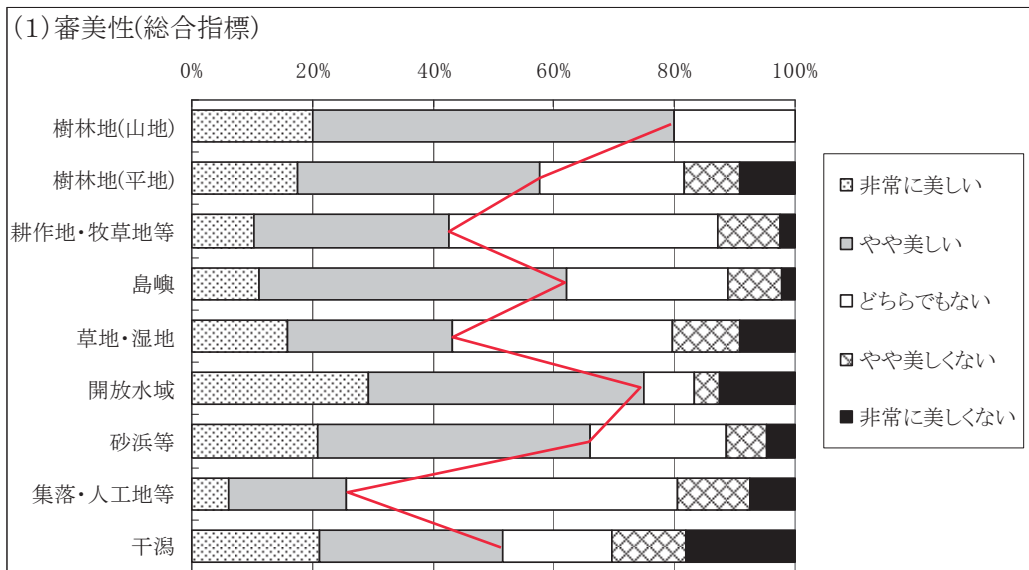


図-6.20.1.84 価値認識ごとのアンケート結果 (その1)



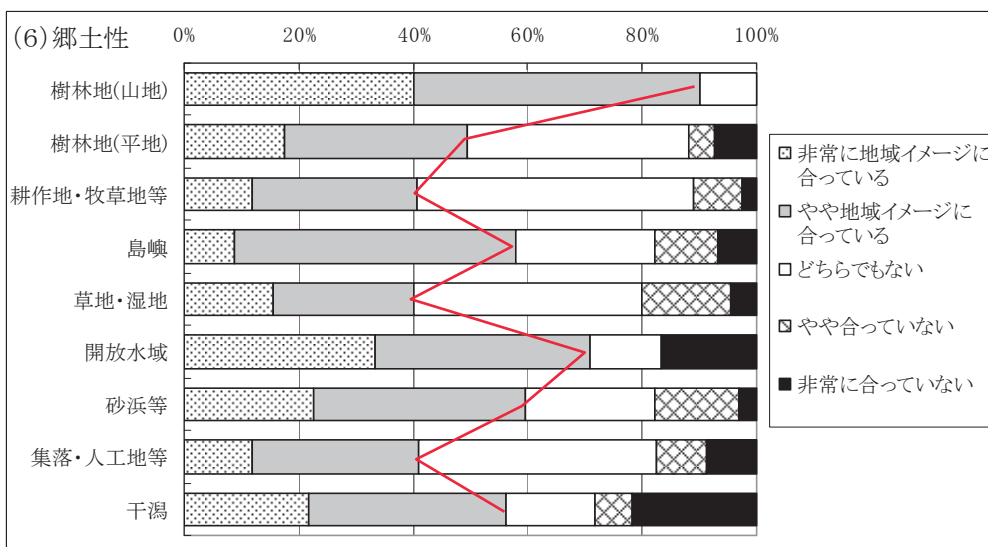
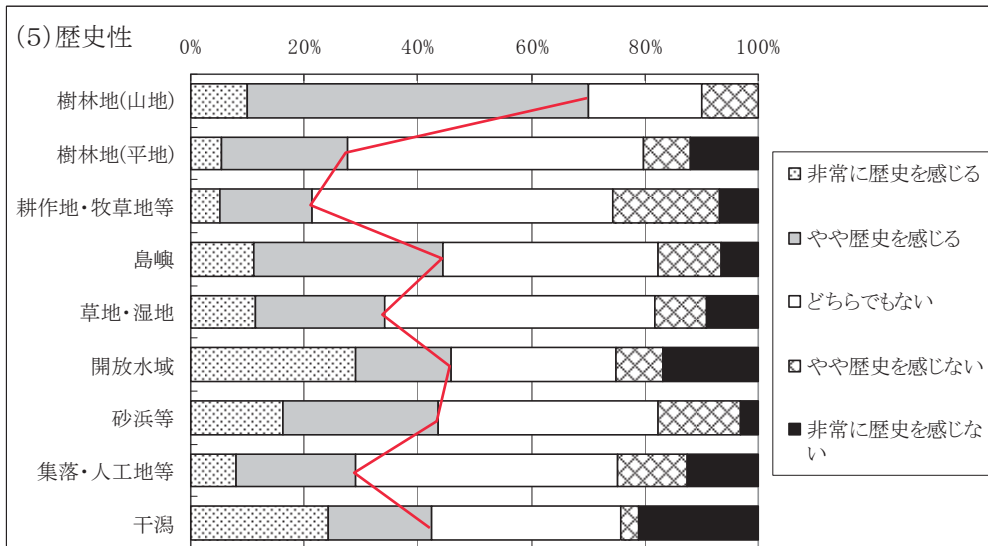
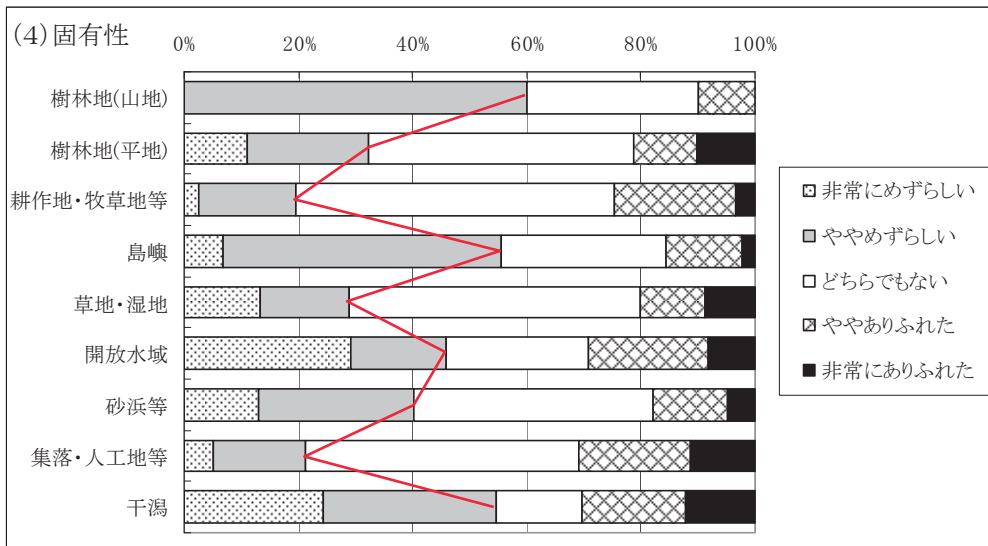


図-6.20.1.85 価値認識ごとのアンケート結果 (その2)

これらの結果及び動植物の現地調査結果などから把握した各景観区分の価値については表-6. 20. 1. 61～表-6. 20. 1. 64に示すとおりです。

表-6. 20. 1. 61 景観区分ごとの価値 (1/4)

景観区分		普遍性		固有性	
		植生・土地利用	動植物の分布状況		
陸域	米軍施設外	樹林地 (山地)	二次林	自然度が高く、イタジイを樹冠とした環境です。イタジイやタブノキ、リュウキュウマツ等が優占し、林床にはシダ類多く生育し、樹林を好むオリエオコウモリやオキナワコキクガシラコウモリ、ツミ、フクロウ類、リュウキュウコゲラ、アマミヤマガラ、クロイワトカゲモドキ、アマミタカチホヘビ、ヒメハブ、イボイモリ、ハロウエルアマガエル等が生息します。また、やんばる的要素であるリュウキュウヤマガメやリュウキュウアカガエルもわずかですが生息します。普遍価値は高いものと考えられます。	イタジイを中心とした構成で、北部地域に特徴的な景観であり、固有性は高いものと考えられます。
		樹林地 (平地)	二次林 植林地	伐採や災害等による倒木から自然更新されたイタジイやボチョウジ、イジュ等を樹冠とした環境や、人為的に移植したリュウキュウマツやモクマオウ類を樹冠とした環境です。樹林を好むオリエオコウモリやオキナワコキクガシラコウモリ、ツミ、フクロウ類、リュウキュウコゲラ、アマミヤマガラ、クロイワトカゲモドキ、アマミタカチホヘビ、ヒメハブ、イボイモリ、ハロウエルアマガエル等が生息します。普遍価値は中程度であると考えられます。	古くからの伐採などの影響を受けた二次林がほとんどで、固有性は低いものと考えられます。
			海岸樹林	海岸部に発達した環境で、塩分や風の影響を受けることから、アカテツやハマビワ、オキナワシャリンバイ等の耐潮性・耐風性の種が生育します。オカヤドカリ類、オカガニ類、海岸性のイソカナタタキや樹林性のオキナワキノボリトカゲやオキナワゴマフカミキリ、オキナワヤマタカマイマイ等が生息します。普遍価値は中程度であると考えられます。	
			マングローブ林	河川汽水域に発達する、ヒルギ類を樹冠とした環境で、他にシマシラキ等のマングローブ林特有の植物が生育します。林床にはカニ類や貝類が多く生息し、ミヅテアシハラガニやマドモチウミナ等はヒルギ類の落ち葉を餌として利用しています。また、ホシマダラハゼやジャノメハゼ等の汽水魚が水路や周辺に生息し、クサフグ等の海水魚も一時的に見られます。普遍価値は中程度であると考えられます。	
		耕作地・牧草地等	人為的改変が大きい環境で、ウコン等の逸脱種やハイキビ、タチアワユキセンダングサ、タチスズメノヒエ等が生育し、乾燥に強いシロアゴガエルやリュウキュウカジカガエル、草地を好むワタセジネズミ、オキナワハツカネズミ、セッカ、アオカナヘビ、オキナワトカゲ、バツタ類、チョウ類等が生息します。スズメやシマキンパラがイネ科植物等の種子を、ネズミ類や昆虫類をチュウサギやチョウゲンボウ、シマアカモズ、リュウキュウイノシシ等が餌として利用します。普遍価値は低いものと考えられます。	人為的影響が大きく、地域性も特になく、固有性は低いものと考えられます。	
島嶼	島嶼	平島や長島等の島や岩礁からなる環境で、陸地からは海で隔離されており、更に塩分の影響があることから、生物相は限定されます。アダンやクサトベラ等の耐潮性のある種が生息し、オカヤドカリ類・オカガニ類が生息します。アダンの実を食べにオリエオコウモリが飛来しますが、爬虫類は少なくウミヘビ類が繁殖に利用します。両生類は生息せず、昆虫類でウスモンウミコオロギ等のわずかな種が生息します。普遍価値は中程度であるものと考えられます。	平島・長島などの島嶼はこの地域のシンボリックな景観であり、固有性は高いものと考えられます。		

表-6.20.1.62 景観区分ごとの価値 (2/4)

景観区分		普遍性		固有性	
		植生・土地利用	動植物の分布状況		
陸域	米軍施設外	草地・湿地	湿地	淡水により冠水、あるいは定期的に覆われる環境で、ヒメガマやチゴザサ等の湿地性の種が生育します。カエル類やオオシオカラトンボ等の止水性トンボ類、海域に近い場所ではカニ類が生息し、これらをアカマタやヒメハブ、サギ類が餌として利用し、リュウキュウヨシゴイやバンが繁殖地として利用します。普遍価値は中程度であると考えられます。	伐採などの影響を受けた二次的な環境が多く、固有性は低いものと考えられます。
			草地	刈り込み等の定期的な管理により維持される環境で、シバやチガヤ、クグテンツキ等が生育し、乾燥に強いシロアゴガエルやリュウキュウカジカガエル、草地を好むワタセジネズミ、オキナワハツカネズミ、セッカ、アオカナヘビ、オキナワトカゲ、バッタ類、チョウ類等が生息します。スズメやアオジがイネ科植物等の種子を、ネズミ類や昆虫類をチュウサギやチョウゲンボウ、シマアカモズ、リュウキュウイノシシ等が餌として利用します。普遍価値は低いものと考えられます。	
	開放水面	ダム湖湖沼	ダムや池沼、溜め池等の止水環境で、ミシシッピアカミミガメやスッポンといった水生カメ類、両生類、ギンブナやメダカ等の魚類、トゲナシヌマエビ、ヒラマキモドキ、ゲンゴロウ類、水生カメムシ類、止水性ヤゴ類が生息します。また、これらの水生生物を狙ってサギ類やミサゴ、カワセミが飛来します。普遍価値は中程度であると考えられます。	地域性や歴史性などは特にはないが、アンケートの結果を考慮し、固有性は中程度であると考えられます。	
		河川	水系の発達した河川環境で、上流の渓流域では、リュウキュウトンボやリュウキュウオオイトモジシマゲンゴロウ、マダラゴキブリ等の渓流性昆虫類やボウズハゼ類やヨシノボリ類、アラモトサワガニ、ヒラテテナガエビ等の流水域を好み、堰堤や砂防ダムを越えられる種が生息し、河岸部にはキムラグモ類の巣穴が見られます。中～下流域ではオオウナギやオオクチュゴイ、グッピー、コンジテンテナガエビ、モクズガニ、オオシオカラトンボ、カワニナ、イシマキガイ等が生息します。リュウキュウイノシシやサギ類、ミサゴ、カワセミがこれらの水生生物を餌として利用します。普遍価値は中程度であると考えられます。		
	砂浜等	砂浜・岩礁	海岸部の砂浜や岩礁部からなる環境で、潮の満ち引きや塩分の影響を受けます。クサトベラやゲンバイヒルガオ等の耐潮性の種が生育し、オカヤドカリ類やオカガニ類、ハマベハサミムシやオキナワシロヘリハンミョウ等の砂浜や波打ち際を好む昆虫類が生息・繁殖場所として利用しています。シギ・チドリ類やサギ類が採餌し、アジサシ類が休息に利用します。塩分に弱い両生類は生息せず、哺乳類や爬虫類の生息もわずかですが、ウミヘビ類が繁殖に利用します。普遍価値は中程度であると考えられます。	地域性や歴史性などは特にはないが、アンケートの結果を考慮し、固有性は中程度であると考えられます。	
集落・人工地等	集落・人工地	住宅や漁港、道路等の人工物が主で、街路樹や庭木、公園や拝所等にアカメガシワやモモタマナ、タイワンクズ等が生育します。街路樹や庭木になる果実等を目的にオリイオオコウモリやキジバト、シロガシラ等が飛来し、ネズミ類やワモンゴキブリ等が人間の生活空間を利用して生息します。普遍価値は低いものと考えられます。	人為的影響が大きく、地域性・歴史性などは特になく、固有性は低いものと考えられます。		

表-6. 20. 1. 63 景観区分ごとの価値 (3/4)

景観区分		普遍性		固有性
		植生・土地利用	動植物の分布状況	
陸域	米軍施設内	樹林地 (山地)	米軍施設外-樹林地 (山地) と同様であると考えられます。	イタジイを中心とした構成で、北部地域に特徴的な景観であるが、一般の利用はなく固有性は中程度であると考えられます。
		樹林地 (平地)	米軍施設外-樹林地 (平地) と同様であると考えられます。	伐採などの影響を受けた二次林がほとんどで、一般の利用はなく固有性は低いものと考えられます。
		耕作地・牧草地等	米軍施設外-耕作地・牧草地等と同様であると考えられます。	人為的影響が大きく、地域性も特になく、一般の利用はなく、固有性は低いものと考えられます。
		草地	陸域-米軍施設外-草地・湿地の草地と同様であると考えられます。	伐採などの影響を受けた二次的な環境が多く、一般の利用はなく、固有性は低いものと考えられます。
		開放水域	米軍施設外-開放水域と同様であると考えられます。	地域性や歴史性などは特になく、一般の利用もなく、固有性は低いものと考えられます。

表-6.20.1.64 景観区分ごとの価値 (4/4)

景観区分		普遍性		固有性
		植生・土地利用	動植物の分布状況	
陸域	米軍施設内	砂浜等	米軍施設外-砂浜等と同様であると考えられます	地域性や歴史性、郷土性などは特になく、一般の利用もなく、固有性は低いものと考えられます。
		集落・人工地等	米軍施設外-集落・人工地等と同様であると考えられます	人為的影響が大きく、地域性・歴史性、郷土性などは特になく一般の利用もなく、固有性は低いものと考えられます。
海域	干潟	干潟	干潮時に現れる砂泥質の環境で、アオノリ属、アオサ属、フデノホ等などの海藻が生育し、オキナワハクセンシオマネキやミナミコメツキガニ、ミナミオサガニ等の甲殻類やカヤノミカニモリやリュウキュウウミニナ、イソハマグリ等の貝類が多く生息します。サギ類やシギ・チドリ類、ハシブトガラス等の鳥類がこれらの水生生物を餌として利用します。爬虫類のウミヘビ類が満潮時に出現します。普遍価値は高いものと考えられます。	地域性や歴史性などは特にはないが、アンケートの結果を考慮し、固有性は高いものと考えられます。
	サンゴ	サンゴ類被度25%以上	サンゴなどが高い被度で分布し、サンゴ礁を利用する生物が多数生息しています。普遍価値は高いものと考えられます。	地域性や歴史性などは特にはないが郷土性が高いものとして固有性は中程度であると考えられます。
	藻場	海草ガラモ類被度25%以上	アマモなどの海草類やホンダワラ類などのガラモ類が高い被度で分布し、それを利用する生物が多数生息しています。普遍価値は高いものと考えられます。	地域性や歴史性などは特にはないが郷土性が高いものとして固有性は中程度であると考えられます。
	その他の海域	海域	サンゴ類や海草藻類の被度は低く、主に砂地や岩礁地。普遍価値は中程度であると考えられます。	地域性や歴史性、郷土性などは特になく、固有性は低いものと考えられます。

(e) 車窓景観の状況

調査地点は、図-6.20.1.86に示す10地点としました。

撮影地点高さは普通乗用車の目線として地上1.2m、観光バスの目線として地上2.5mとしました。

調査地点からは、晴天時の昼間を基本として、夏季、秋季、冬季の3季にわたり、朝・夕方・夜間の時間帯別及び降雨時に撮影を行いました。

各調査地点からの撮影結果について、季節間及び日中の撮影時間帯における違いはほとんどなかったことから、代表として夏季昼間及び夏季夜間の撮影結果を図-6.20.1.87及び図-6.20.1.88に示しました。

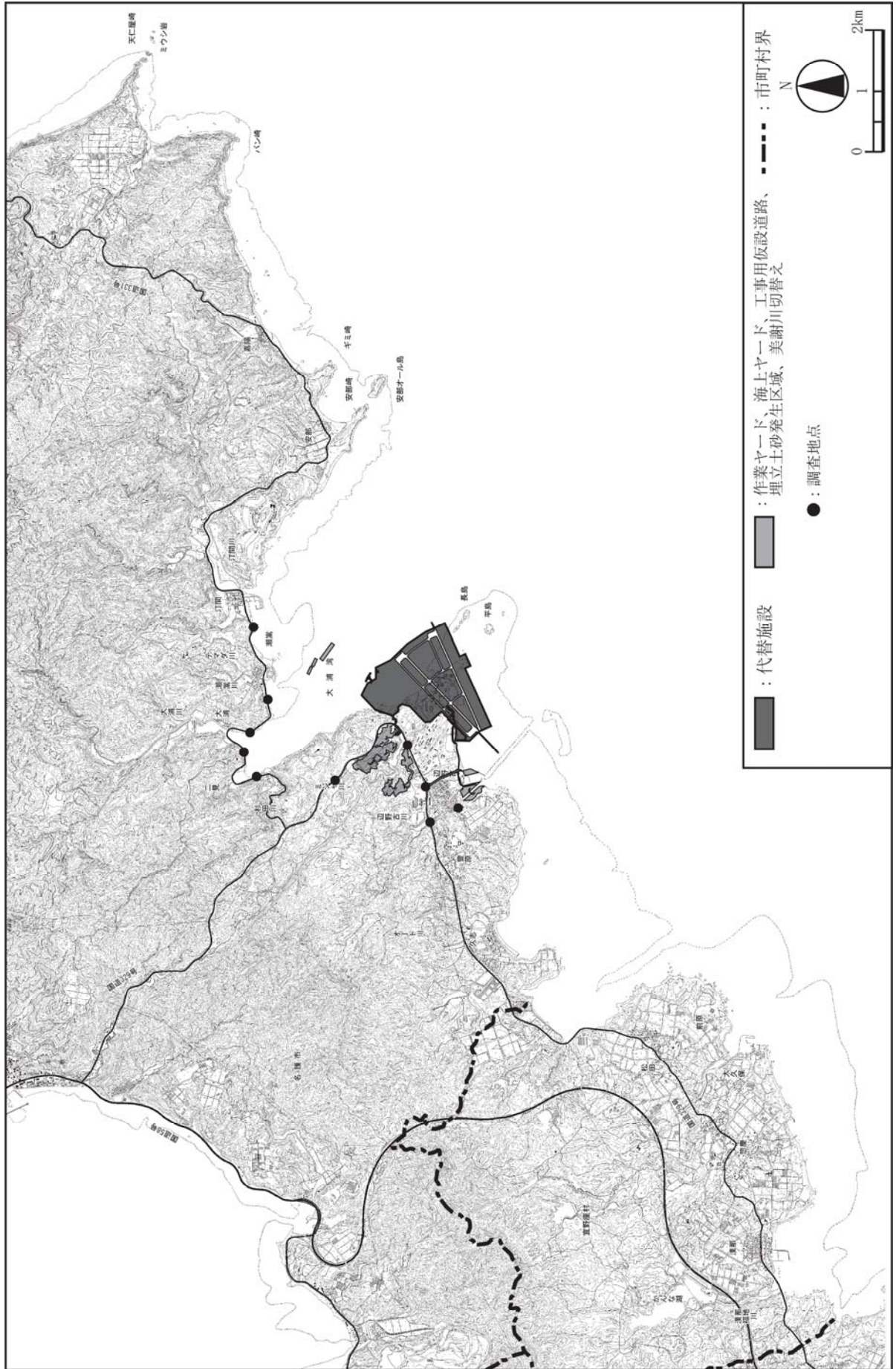


図-6.20.1.86 車窓景観の調査地点

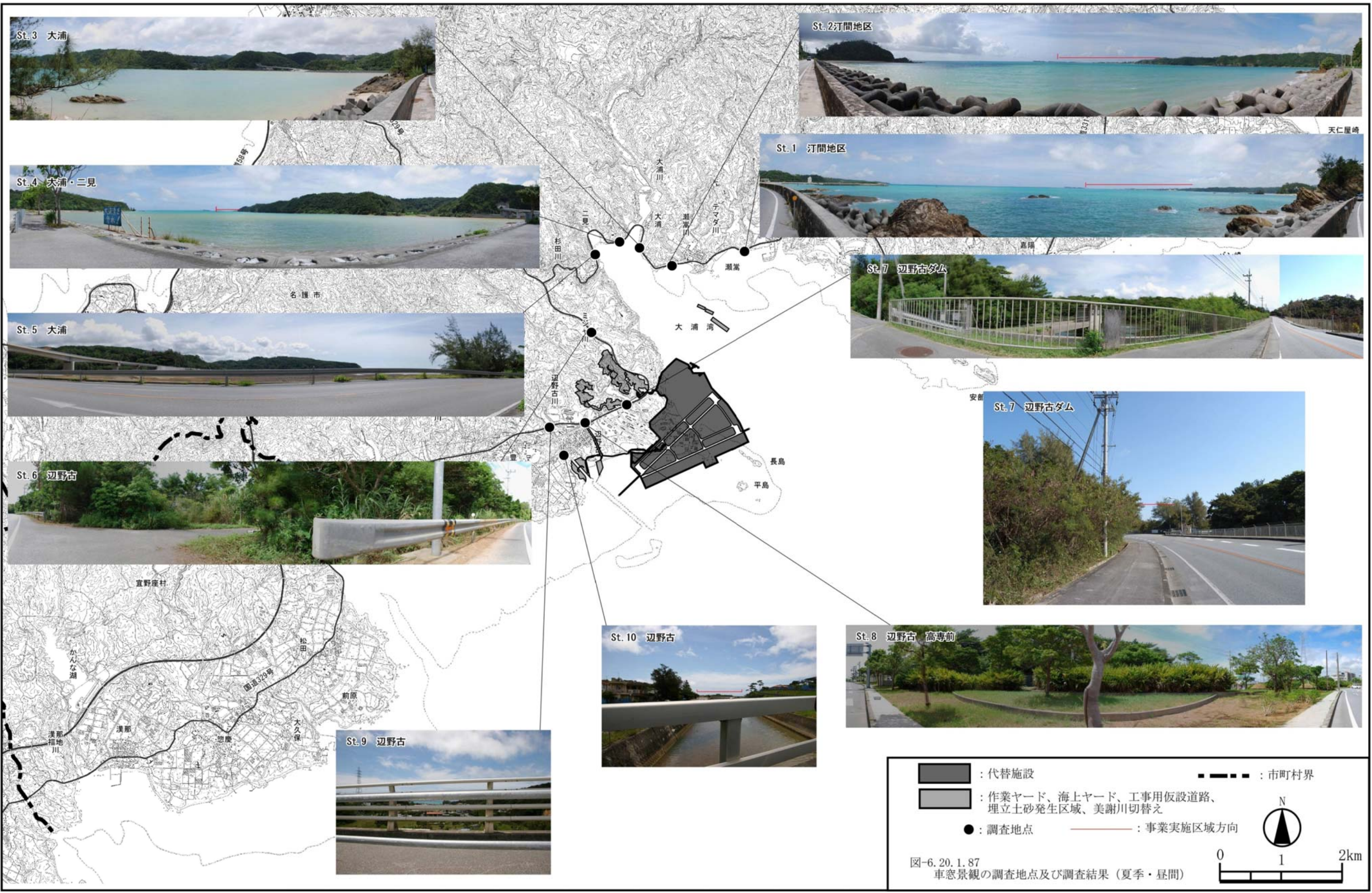


図-6.20.1.87 車窓景観の調査地点及び調査結果（夏季・昼間）



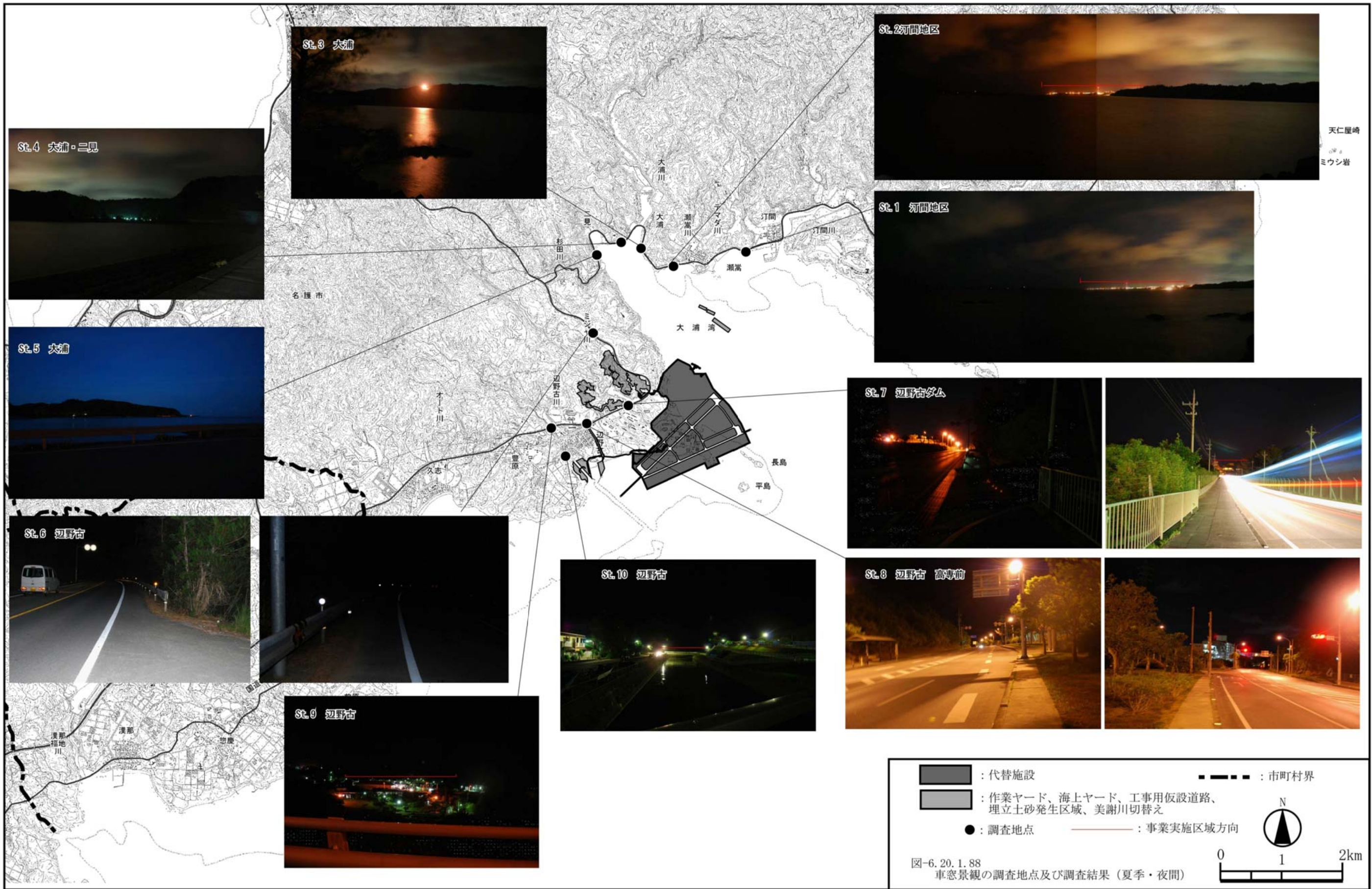


図-6. 20. 1. 88  
車窓景観の調査地点及び調査結果 (夏季・夜間)

## 6. 20. 2 予測

### 6. 20. 2. 1 工事の実施

#### (1) 予測の概要

工事の実施に伴い、護岸の工事及び埋立ての工事、更に造成等の施工による一時的な影響として、土地の改変による景観資源等の消失、水の濁り及び作業ヤード・仮設道路等の設置に伴う主要な眺望景観の状況の変化が考えられることから、その変化の程度を予測しました。景観の予測概要は、表-6. 20. 2. 1. 1に示すとおりです。

表-6. 20. 2. 1. 1 景観に係る予測の概要（工事の実施）

項目	内容
予測項目	主要な眺望点及び視点場の状況 景観資源の状況 主要な眺望景観の状況 車窓景観の状況
影響要因	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 公有水面の埋立 護岸の工事 埋立ての工事</li> <li>・ 飛行場及びその施設の設置 造成等の施工による一時的な影響</li> </ul>
予測地域	調査地域のうち、可視不可視領域の解析結果から、主要な眺望点及び視点場、景観資源並びに主要な眺望景観に係る環境影響を受けるおそれがあると認められる地域としました。
予測対象時期等	景観の特性を踏まえて主要な眺望点及び視点場、景観資源並びに主要な眺望景観に係る環境影響を的確に把握できる時期として、工事中において、景観に係る影響を的確に把握できる時期としました。
予測の手法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 主要な眺望点及び視点場の状況、景観資源の状況 主要な眺望点及び景観資源の分布と事業実施区域との重ね合わせにより、場の改変の程度を予測しました。</li> <li>・ 主要な眺望景観の状況 予測・評価の対象として選定した主要な眺望景観の視覚的変化を、フォトモンタージュ、透視図による予測画像を作成し、現況と比較することにより推定。また、土砂による水の濁りの予測結果を踏まえ、眺めの状況の変化を定性的に予測しました。</li> <li>・ 車窓景観の状況 予測・評価の対象として選定した主要な車窓景観の視覚的変化を、フォトモンタージュによる予測画像を作成し、現況と比較することにより推定しました。</li> </ul>

## (2) 予測方法

主要な眺望点及び視点場の状況・景観資源の状況については、主要な眺望点及び視点場の状況・景観資源の状況と、事業実施区域との重ね合わせにより、場の改変の程度を予測しました。

主要な眺望景観の状況については、景観利用が図られている地点で、眺望景観に変化が生じる地点を予測の対象として選定し、予測地点からの主要な眺望景観の視覚的变化を、事業計画に基づいてフォトモンタージュ、透視図による予測画像を作成し、調査によって得られた現況における現場写真と比較することにより、変化の程度を検討しました。また、工事に伴い発生する濁り及び堆積による影響については、土砂による水の濁りの予測結果を踏まえ、眺めの状況の変化について検討を行いました。

車窓景観の状況については、幹線道路からの眺望景観に変化が生じる地点を予測の対象として選定し、予測地点からの車窓景観の視覚的变化を、フォトモンタージュによる予測画像を作成し、調査によって得られた現況における現場写真と比較することにより、変化の程度を検討しました。

## (3) 予測結果

### 1) 主要な眺望点及び視点場の状況

事業実施区域及びその周辺における主要な眺望点及び視点場は、多くの観光客に利用されるカヌチャベイホテル&ヴィラズ、カヌチャビーチや、地元の住民の方達に利用されている辺野古前上原公園、汀間漁港、ヒーピー海岸交流広場など陸域の視点場からの眺望と、平島周辺で行われているグラスボートやシュノーケル等の海洋レジャーの際に見ることのできる海上・海中からの眺望があげられます。

図-6.20.2.1.1及び図-6.20.2.1.2示すとおり、これら主要な眺望点及び視点場のうち、陸域の米軍施設外の地点については土地改変による消失はありません。陸域の米軍施設内の地点については、一部(米軍施設内ビーチ)が修景を行えないことから消失します。また、海上からの眺望についても一部が緑化等の修景を行えないことから消失することになると予測しました。



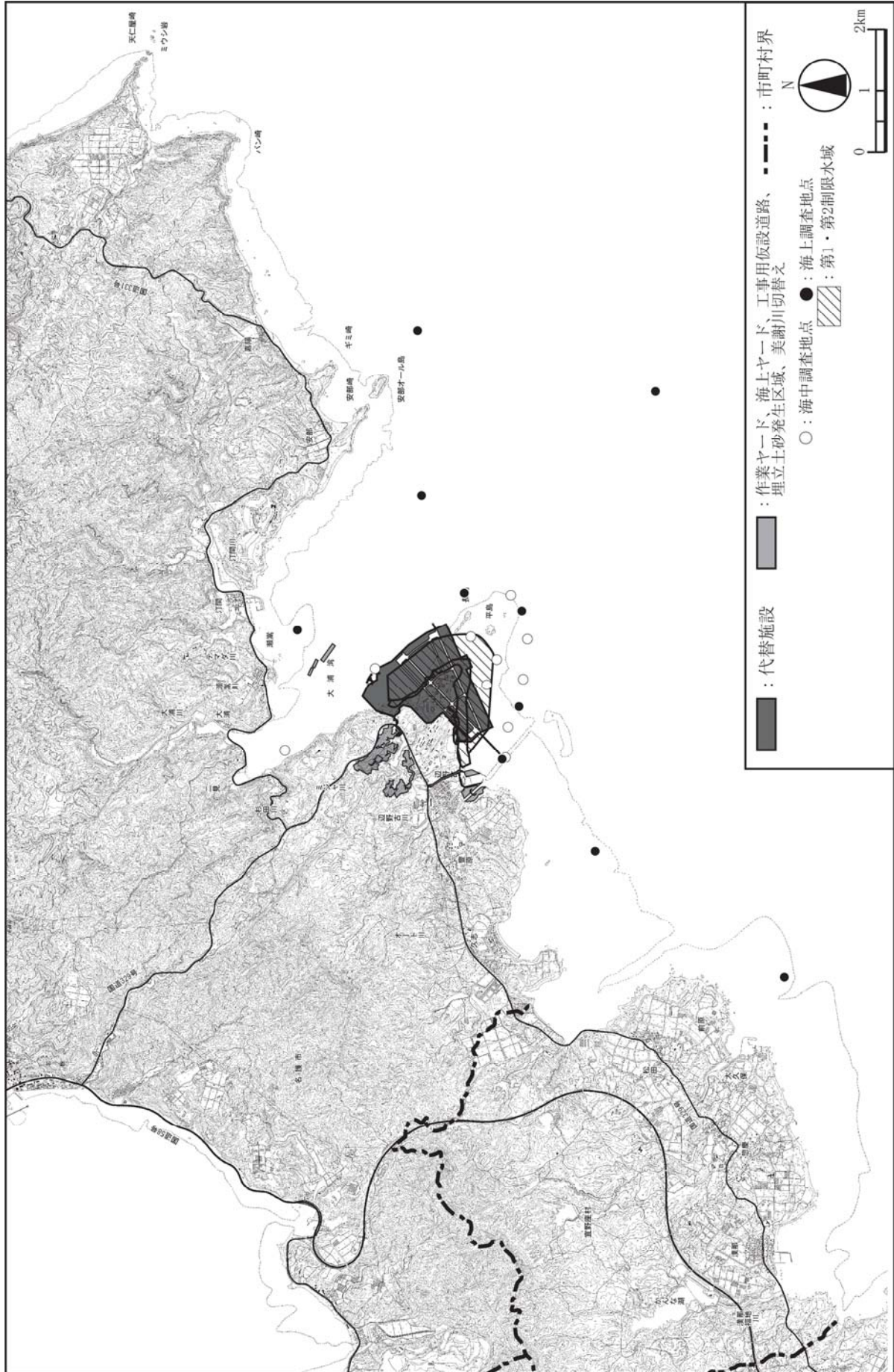


図-6.20.2.1.2 主要な眺望点及び視点場の改変の程度

## 2) 景観資源の状況

事業実施区域及びその周辺における景観資源は、山地、海成段丘、島嶼、樹木などがあげられます。これらのうち、図-6.20.2.1.3に示すとおり、工事の実施により、海成段丘の一部が改変されることとなりますが、調査範囲に分布する約4,473haの海成段丘のうち、改変される面積は62haであり、改変率は1.4%になると予測しました。

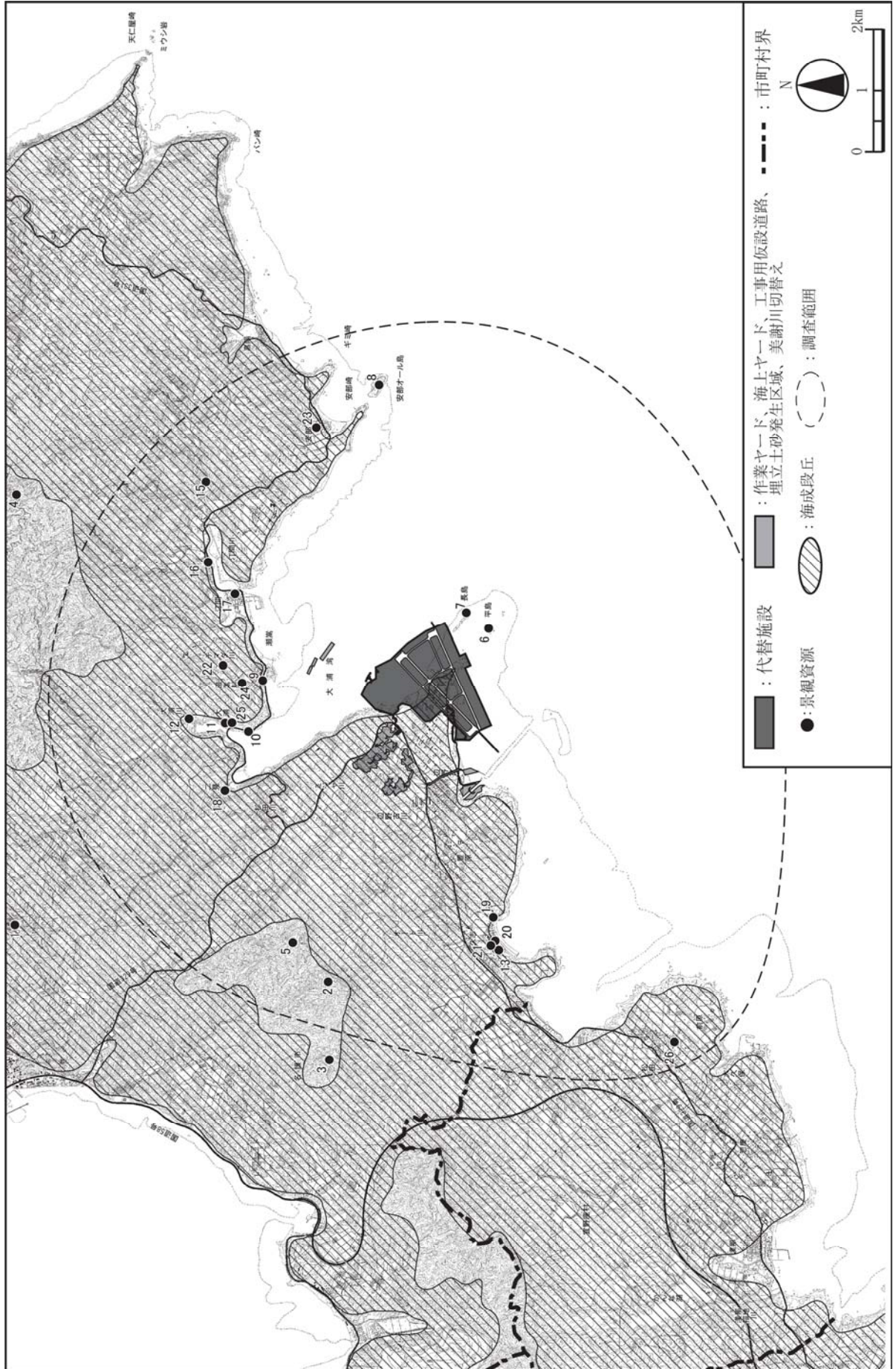


図-6.20.2.1.3 景観資源の改変の程度

### 3) 主要な眺望景観の状況

工事中における主要な眺望景観の予測にあたっては、主要な視点場として調査地点を選定した陸域の 23 地点及び海中の 10 地点のうち、辺野古地先水面作業ヤードが眺望可能な辺野古前上原公園、海上ヤードが眺望可能な汀間漁港、埋立土砂発生区域が眺望可能なカヌチャベイホテル&ヴィラズ、海中調査地点からは、工事中は間近まで近づくことができないことから代替施設予定地前面で 200m ほど離れた位置にある地点 3 を選定しました。主要な眺望景観の予測位置を図-6.20.2.1.4に示しました。また、これらの主要な眺望景観の変化の程度を図-6.20.2.1.5～図-6.20.2.1.8に示しました。

また、工事中の水の濁りによる影響については「6.7 土砂による水の濁り」の項目において、SS 負荷量がピークとなる時期において SS が 2mg/L となる範囲は、代替施設本体南側護岸の工事では施工場所から 1～2km 沖合に拡散し、大浦湾内及び辺野古地先水面作業ヤード、辺野古リーフ上の護岸工事、海上ヤードの工事では施工場所近傍に限られると予測しました。更に、降雨時において陸上工事に伴い発生する SS が 2mg/L となる範囲は、切替え後の美謝川河口前面及び辺野古漁港東側の排水路前面、代替施設本体の雨水排水施設前面など局所的であると予測しました。以上のことから、水の濁りによる景観資源としての海域の変化は局所的で工事期間中の一時的なものと予測しました。



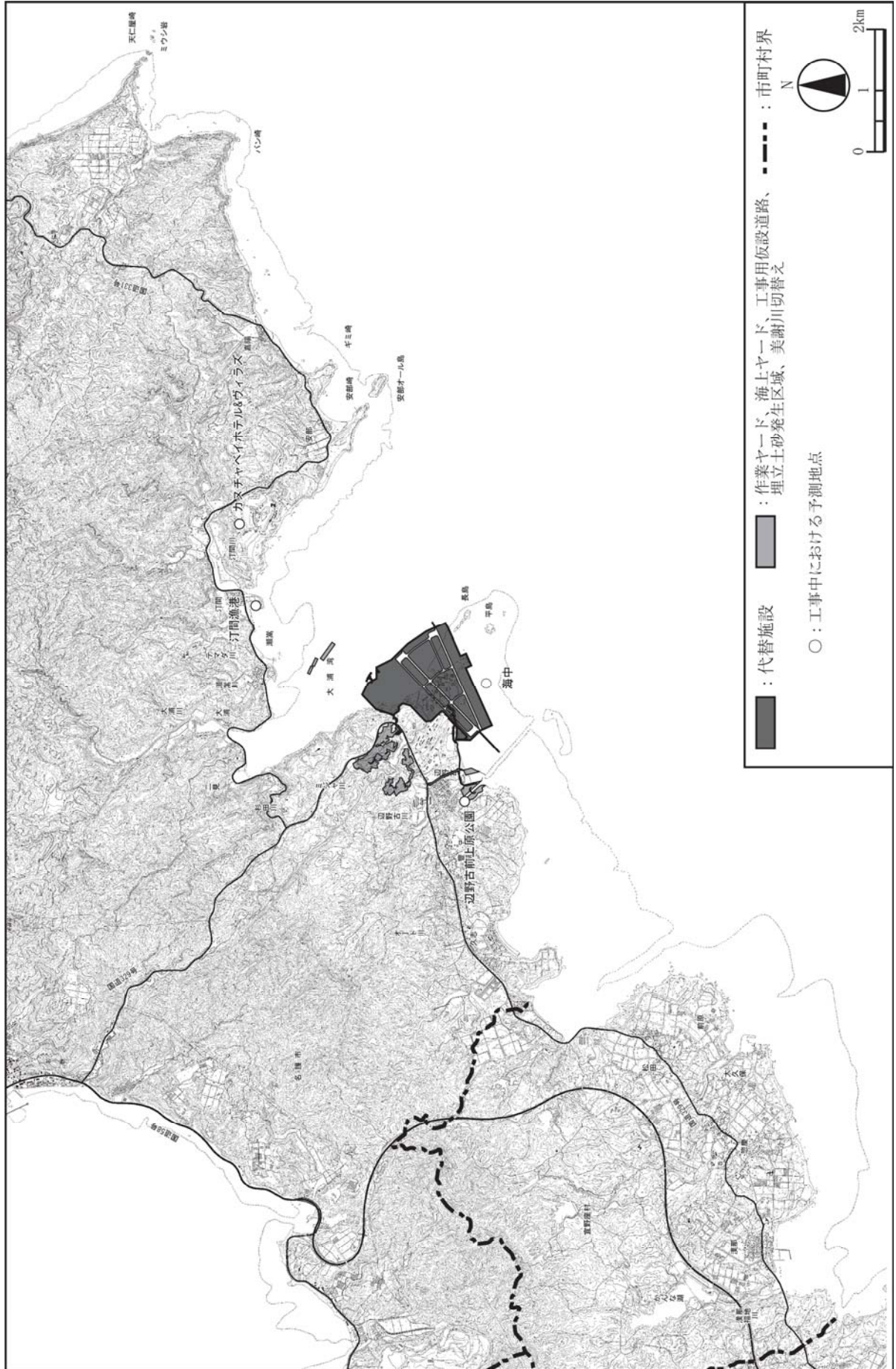


図-6.20.2.1.4 主要な眺望景観の変化予測地点（工事中）

(a) 辺野古前上原公園からの眺望景観の変化

本地点は辺野古区中心部の南部、県道 13 号線近くの辺野古前上原公園内の高台に位置しています。南南東方向への眺望では、手前に辺野古川河口部と河川敷が、その先左手には辺野古集落と山林が、右手には辺野古漁港と神社が見え、奥に太平洋を、水平線上に平島と長島を眺望できます。キャンプ・シュワブ自体は見えません。

工事中は、工事用仮設道路が視野を横切るように眺望され、辺野古地先水面作業ヤードが手前すぐ眼下の河川敷から神社手前まで視野いっぱいに見られることとなり、工事用仮設道路により平島・長島への眺望は遮られ、60° 円錐視野内の景観構成要素については人工物が 19.76%の増加となります。事業実施により以上のような眺めの変化が生じることとなります。

なお、工事用仮設道路の色を海の青色に近い配色の塗装にする事で、背景に溶け込みやすくなり、工事用仮設道路ができたことによる圧迫感を軽減できるものと考えられます。

(b) 汀間漁港からの眺望景観の変化

本地点は大浦湾内に位置する汀間漁港の棧橋に位置しています。南西方向への眺望では、眼前に大浦湾が広がり、その先には辺野古崎一帯の半島、水平線上には平島・長島を眺望でき、キャンプ・シュワブのキャンプ地区・弾薬庫地区・演習場地区の東側が望めます。

工事中は、海上ヤードにおいて作業を行う作業船が平島のすぐ右手に眺望されることとなり、平島への眺望は部分的に遮られる場合もありますが、構造物が出現することはないものと考えられます。また、60° 円錐視野内の景観構成要素については人工物が 0.24%の増加となりますが、海上ヤードは工事終了後、速やかに撤去されることから、眺望状況の変化は工事期間中の一時的なものにとどまるものと考えられます。

なお、本地点では、工事中の船舶は随時移動していることから、船舶数を特定することは不確実性を伴うため、クレーン船や、台船など複数の作業船が同時に作業可能な台数を想定し、フォトモンタージュを作成して予測を行いました。

(c) カヌチャベイホテル&ヴィラズからの眺望景観の変化

本地点はリゾート施設であるカヌチャベイホテル&ヴィラズの敷地内北部の高台にあります。西方向への眺望では、手前にリゾート施設、その先に大浦湾が広がり、大浦湾右手には幾重にもせり出した岬と、遠く久志岳と辺野古岳を眺望することができ、キャンプ・シュワブのキャンプ地区・弾薬庫地区・演習場地区の東側が望めます。

工事中は、海上ヤードにおいて作業を行う作業船が大浦湾内に眺望できますが、構造物が出現することはなく圧迫感はないものと考えられます。また、埋立土砂発生区域が久志岳・辺野古岳の左手前の半島地形上に眺望されることとなりますが、久志岳・辺野古岳への眺望が遮られることはありません。埋立土砂発生区域までの距離は約5km、俯角は約 $0.4^{\circ}$ で目につき易いということはなく、 $60^{\circ}$ 円錐視野内の景観構成要素については岩場・裸地が0.06%の増加、人工物が0.01%の増加になるものと考えられます。

(d) 海中の眺望景観の変化

本地点は、キャンプ・シュワブの南側沖約500m、代替施設の護岸予定地から約200mの場所にあります。周囲には藻場が広がっていますが、平均的な水平透視度が約20mであるため、周辺海域を遠くまで眺望する事はできません。

工事中は、代替施設の護岸工事が北側200m先で行われていますが、水平透視度が約20mであるため構造物が出現することはなく圧迫感はないものと考えられます。また、 $60^{\circ}$ 円錐視野内の景観構成要素については変化が無く、現況における眺望状況と違いはないものと考えられます。

なお、海上ヤード周辺海域でも本地点と同様に水平透視度が約20mであり、構造物が出現することはなく圧迫感はないものと考えられることから、現況における眺望状況と違いは無いものと考えられます。